



看護学部・看護栄養学部だより

山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

発行 山口県立大学看護栄養学部 〒753-8502 山口市宮野下 TEL 083-933-1450 FAX 083-933-1483
山口県立大学：<http://www.ypu.jp/> 看護栄養学部：http://www.ypu.jp/index.php?M_ID=6

第12号*

教育の充実に向けた様々な取り組み

山口県立大学 看護学部長・看護栄養学部長 藤村孝枝



本学は、平成19年度に、文部科学省の大学教育改革支援プログラム（GP）に5件採択され、様々な新たな取組が始まっています。GPとは各大学の優れた教育への取組（Good Practice）を文部科学省が評価、選定し、財政支援をするもので、山口県立大学の地方小規模大学のメリットを活かした、地道で丁寧な組織的教育力が高く評価されたものだと思います。

昨年、看護栄養学部看護学科、栄養学科の1学部2学科体制となった本学部でも、栄養学科の〈行動変容を促進する栄養指導法を身に付ける栄養士キャリアアップ支援プログラムの開発〉が、社会人GPとして採択され、看護学科においても、看護職のキャリアアップ支援として認定看護師養成を検討しています。

学部教育においては、看護、栄養学科ともに実践能力を有し、かつ他職種と連携・協働することができる専門職の育成に取り組んでいます。その一端として、人の生活に関わる看護、栄養、そして社会福祉という3つの学科の学生と一緒に学ぶ科目を配置し、他の職種を理解しながら自分の専門性を再認識し、他職種と協働しながら展開する力をつけてもらえるよう教育の充実を図っています。また、社会福祉学部において開設された、地域の人々との交流スペース「YUCCA（ユッカ）」（特色GP）での様々な地域活動を通して、楽しみながらの実践学習も可能となっています。学生の皆さん自身が、人として、のびのびと、大きく成長できるよう、大学の内外に様々な体験や人との出会い、チャンスを用意しています。

最後に、看護学科、栄養学科における採血用穿刺器具の不適切な使用につきまして、改めてお詫びを申し上げます。教育機関として、あってはならない事と深く反省をし、今後このようなことを二度と起こさないよう、真摯に教育に取り組む所存です。

今後とも大学、学部への忌憚のないご意見、お気づきをお知らせ頂きますようお願い致します。

第7回 山口県看護学研究会

日時 平成20年10月5日(日) 9:30~16:00

会場 山口県立大学 看護学科棟 F204

内容

一般演題報告（現在演題募集中）

教育講演

「看護のチャレンジ

～認定看護師制度の効果と展望～(仮題)」

日本看護協会常任理事 廣瀬 千也子 氏

栄養士キャリアアップ研修の開講

現職の管理栄養士を対象に、5月24日から11月30日にかけて、「メタボリックシンドロームの考え方に基づく保健指導」をテーマにキャリアアップ研修を開講しています。研修を修了し、所定の審査に合格した方を「生活習慣改善指導士」として県立大学が認定します。

(※看護栄養学部だより2号となります)

看護学科長あいさつ



選ばれる大学 になるために

看護学科長
中村 仁志

新たな年度が始まって3ヶ月ほどが経過しました。新生活が始まるということで入学式の時に緊張していた新入生も、もうすっかり宮野の住民になっています。2・3・4年生は、講義・演習・臨地実習と忙しくはありますが、元気な様子で学習に取り組んでいます。

今、看護系大学は、毎年約10校ずつ増えています。最終的には200校近くなるのではないのでしょうか。このように受験生にとっては、自分の目的にあった学びたい看護系大学の選択肢がますます増えている中、我々教員には、この200校近くの看護系大学から山口県立大学を選び、ここで学んで良かったと思える教育を行うことが求められています。

これまで看護学科では、地域を視野に入れ、『保健・医療・福祉従事者の一員として、看護の専門的機能を発揮できる能力を養い、社会の様々な分野において人々の健康と福祉の向上に寄与できる人材育成』を理念として教育を行ってきました。さらに、昨年度より看護栄養学部として栄養学科と同学部になることにより、人々の健康を対象とした他職種と協働できる力を身につけ、看護の専門職として人々の健康の維持、増進、不健康からの早期回復をテーマとした幅広い支援ができる人材を育成すること力を注いでいます。

これからも社会の健康に対するニーズに答えられる看護学科として、これまで以上の教育を提供できるよう、教職員一同努力を惜しまないつもりで臨んでいます。

今後とも、皆様の暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

栄養学科長あいさつ



コンパニオン プランツのように

栄養学科長
島田 和子

小さな庭で野菜を育てていますが、素人でも栽培しやすい野菜となると種類が限られ、毎年、同じものを植えることになります。そうすると連作障害がおこって、成長が悪くなったり、病気になったりします。最近、コンパニオンプランツ(共存作物)のことを知りました。複数の植物を組み合わせると、お互いの性質の違いによって、病気や害虫の発生を防いだり、生育を促したり、味も良くなるのだそうです。人も同様のことが言えるでしょう。育った場所・環境、考え方、特技などが、自分と異なる人との共存は互いに助け合い、成長し、強くなり、より豊かな何かを得られると思います。栄養学科の一学年は約40人からなり、個性豊かな学生が各地から集まってきます。4年間の学生生活で、実験・実習ではグループワークや成果発表の準備、水無月祭や華月祭ではイベントの運営、サークルではその活動など、各々の場で、異なる人と一つの目的に向かって進んでいく機会が多くあります。特に、昨年誕生した看護栄養学部栄養学科の授業には、クラスメートと共に調べ学習をし、それを発表することで専門的な内容の理解とともにコミュニケーション能力も養えるような科目が多くあります。これまで以上に他者との協働が必要になるでしょう。コンパニオンプランツのように、学生たちが互いに協力し、励まし競い合い、生き生きと逞しく、何か収穫を得て巣立っていくことを望んでいます。

我家の庭に、ピーマンとニラ、トマトとインゲンマメが隣り合って雑然と植わっていますが、さて気になる今年の収穫量は？

看護栄養学部学生近況報告

看護学科1年 真倉千明

山口県立大学に入学して早くも3ヵ月が経ちました。最初は全く新しい環境での生活に大きな不安がありましたが、今では一人暮らしにも大学の授業にも新しい友達にも慣れ、充実した毎日を送っています。大学は様々な県から人が集まっているのでそれぞれの方言や習慣を知ることがとても新鮮で楽しいです。まだ3ヵ月しか経っていないのに看護学科の友達は昔から友達だったのかと思うくらい仲良くしています。授業も高校とは違って1コマ90分になり、専門科目もあり慣れないレポートに取り組むのも大変ですが、早く慣れるように頑張っていきたいと思います。

先日行われた水無月祭では、午前の部の体育祭のために学科でお揃いのTシャツを手描きで作りました。みんなでデザインを考えみんなでスプレーなどを使って描いたのでとても楽しかったし、団結力もより一層増したように思いました。体育祭も栄養学科と合同のチームで新しい友達も増え、優勝は出来なかったけれどみんなで協力して楽しむことができました。午後の部ではたくさんの飲食店やステージ発表があり、とても楽しめました。

私は将来助産師になりたいと思っています。助産師になるための課程は学科から毎年5人程度しか履習できず、国家試験を受けるためにも勉強が必要なのでとても大変だと思いますが、幼いころからの夢だったので大学生活を楽しみながらもしっかりと勉強に取り組んでいきたいと思っています。

これから楽しい事や苦しい事がたくさんあると思いますが、色々な経験をして成長していきたいと思っています。



栄養学科1年 村田麻由美

入学してから3ヵ月が経ちました。入学前は一人暮らしや友達ができるかなどの不安でいっぱいでした。でも、入学して栄養学科の人達と話して、みんな優しく面白い子ばかりで、その不安も楽しい大学生活になりそうという期待へと変わりました。

宿泊オリエンテーションでは、長門市の大寧寺に一泊しました。正座で静かに食べる精進料理はとても辛かったけれど、レクリエーションではみんなでドッジボールをしたり花火をしたりして本当に楽しかったです。寺では、精進料理や座禅、広い本堂に布団を並べてみんなで寝るなど、貴重な体験ができました。辛いこと、楽しいことを一緒に体験することで、みんなとすぐに仲良くなりました。入学後すぐに行くため、行く前は不安だったけれど、本当に行って良かったと思いました。

水無月祭では、午前は1年で運動会をしました。応援でとても興奮してとても盛り上がりました。栄養学科の絆がより深まったと思います。午後からは、模擬店やステージが行われました。私は女子バスケット部でサーターアングギーの模擬店を出しました。すごく疲れたけれど、本当に楽しい一日でした。

まだ、大学生活がスタートしたばかりで、今はまだ未来は見えないけれど、栄養学科のみんなや、他の学科の人、部活の先輩達、みんないい人ばかりで、人に恵まれたと思います。なので、これからの4年間、辛いこともあるだろうけれど、たくさん楽しいことが起こりそうな予感がします。

この山口県立大学でたくさんの人と出会い、自分の夢に向かって努力し、4年後に成長した自分に会いたいです。そして、みんなと多くの思い出をつくり、充実した大学生活を送りたいと思います。



看護学科2年 藤崎彩花

私たちが山口県立大学に入学して早いもので1年が経ちました。最初は不安でいっぱいだった大学生活・一人暮らしに慣れてきたところです。1年生の頃は基礎科目が多く、部活やバイトなど学校以外での活動をする時間もありましたが、今では専門科目が増え、グループワークや自己学習で毎日忙しい日々を送っています。特に今は基礎看護学実習が始まり、1年後期から現在にかけて習った技術を実習で実際に行っているところです。授業時間外に友達同士で練習したり、図書館を利用し疾患について調べたりと自分たちにできることを必死でやろうとする姿は充実感にあふれています。

実習では実際に患者さんと触れ合えることができ、また、臨床の看護師さんから直接お話を聞けるため、私たちにとってよい刺激となっています。その一方で、自分たちの力不足を再確認させられます。また学校では「学生」ですが病院に行けば「社会人」です。責任をもった行動ができなければなりません。このようなことを実習を通して学んでいます。

最近、水無月祭が行われました。それぞれのサークルや部活で模擬店を出したり、ステージ発表をしたり、たくさんの人が集まっていました。1年生は運動の部もあり、騎馬戦などで盛り上がっていました。

大学生活は忙しい面もありますが、友達と過ごす毎日はとても楽しいです。今はまだ未熟ですが、一人ひとりがしっかりと目標を持って看護師、保健師、助産師または養護教諭の夢にむかって一歩ずつ進んでいけるよう、支えあって頑張っていきたいと思います。

山口県立大学に入学してはや一年経ち、はじめは不安でたまらなかつた大学生活や親元を離れての一人暮らしにも慣れてきました。

授業では一年生の時と比べて、より具体的で実践的な内容が増えました。働く現場に起こることを想定しながらの学びは、管理栄養士という職業や仕事に対する自分の意識を高め、なんとなく漠然としたものとしてしか捉えてなかつた「管理栄養士」というものを身近なものにしてくれています。このような授業を通して将来どのような職場で自分は働きたいのか、しっかり考えていきたいと思ひます。また、一年生の時に学んだ基本的な知識をもとに実験を行ったり、症例を通して再度学んだりすることで、一年のときにやってきたことが今の学習に確かにつながっているのだなと実感しました。

二年ではグループワークも増え、授業時間以外に集まったり、レポートの他に事前学習や事後学習なども増えたりと、一年生のときよりもさらに忙しさを感じています。日々重なる忙しさや、やるべきことがなかなか出来ない自分に嫌になり自信を無くすこともよくありますが、周りの友達にも助けられながらなんとかやっています。栄養学科は必修科目が多く、一年生の頃からほとんどみんな同じ授業をとっています。そのためかクラス全体の雰囲気は良く、私は毎授業見慣れた顔の中で落ち着いて楽しく勉強することができています。今年の水無月祭では栄養2年でお店を出しました。忙しい中にもこういったみんなとの活動があることをうれしく思ひます。これから二年の後期、三年、四年と今以上の忙しさに追われることもあると思ひますが、みんなで頑張っていけたらいいなと思ひます。



看護学部学生近況報告

看護学部3年 佐伯 香奈

大学生活も折り返し地点を過ぎ、日々忙しい生活を送っています。6月からは実習も始まりました。1、2年生の頃に行った実習とは違い、実習期間も長く、患者さんと接する時間も増えてきました。そのため、患者さんの日々の変化を感じることができ、一層、実習に身が入ります。実習1～3日目では一人でできなかった援助もできるようになり、ケアの幅も広がってきたと思います。疾患やケアの方法について個々で学んでいますが、疾患の特徴やマニュアル化されているケアの方法が必ずしも患者さんに当てはまらないということを感じています。特にケアについては受け持ちの患者さんに合わせて工夫を凝らし、個性を重視したケアが行えるように努力しています。ですが、自分の出来ないことの多さに気づかされ、未熟さを感じてしまいます。その度に、現場のスタッフ、先生方など多くの方からご指導、アドバイスを頂き、日々試行錯誤しながら実習を行っています。

辛いことも多々ありますが、クラスの仲間と励まし合い、みんなで協力しながら、これからも頑張っていこうと思います。そして、残り1年半と

いう短い学生生活ですが、毎日が有意義なものとなるように、充実した日々を送りたいと思います。



看護学部編入3年 西開地 由美

本学に編入学して、3ヶ月が経ちました。今まで臨床にいたためか、仕事に行かず講義を受けている自分に違和感を感じながらも大学生活がスタートしました。入学して一番大変だったのが、専門学校時代に取得した単位の認定作業と、大学の授業の履修の仕方です。わからないことだらけでしたが、先生方や一緒に編入してきた仲間のおかげで乗り越えてきました。編入生は、年齢様々ですが時間が経つにつれ仲間意識が強くなっている感じがします。一緒に食事に行ったり、6

月は蛍を見に行きとても楽しい時間を過ごすことができました。大学生活の中で、一緒に笑ったり、楽しんだり、共感できる仲間に出会えたこと感謝しています。

最近では、専門学校時代には習わなかった専門分野の講義を受けていくうちに、臨床時代の苦い経験を思い出しては、自分の未熟さ、勉強不足だったことを痛感させられています。私が、スキルアップのために編入を決意し、きっかけとなった職場の先輩、患児とその家族を思い出しては、「自分が今ここに意味」を考え、大学生活を後悔のないように、充実した日々が過ごしていけるよう努力していこうと思います。

これからは、前期・後期末試験や地域保健学実習があり忙しくなってくると思いますが、編入生の仲間としっかり目標を持ち、支えあいながら頑張っていきたいです。そして、本学は総合大学であり、看護学部以外の方々と触れ合いを通して、広い視野から看護学を学んでいきたいと思ひます。



看護学部4年 貞野 友里恵

4年生になってもう3ヶ月が過ぎようとしています。今私たちは母性・小児・精神看護の実習に取り組んでいます。実習中の課題は大変ですが、患者さんと関わっていく中で看護の楽しさを日々実感しています。4年生になると授業はほとんどありませんが、実習以外にも卒業研究や国家試験の勉強、就職試験の勉強に取り組み、助産師や養護教諭を目指す人もこれから専門的な授業や実習があります。クラスの全員が集まる機会は少なくなりましたが、一人ひとりが自分の進みたい道を考えながら毎日を過ごしています。

今までの大学生活を振り返ると、とても早く時間が過ぎたように思ひます。けれど今までの人生の中でとても濃い時間だったように思ひます。グループワークの課題に追われて夜遅くまで学校に残ったり、それでも課題が終わらなくて友達の家に集まって深夜一緒に課題に取り組んだりした時期もありました。実習で患者さんとどのように関わってよいのかわからず悩んだり、辛い現実を



目の当たりにして泣いたこともたくさんありました。看護学部での勉強は想像以上に大変で一度目指そうと決

めた道を諦めたくなくなるときもありました。それでも同じ苦しみを分かち合える友達がいたから今も看護師を目指して頑張っているのだと思います。

来年の今頃はもう学生としてではなく社会人としての生活が待っています。将来のことを考えると不安なこともたくさんありますが、このメンバーで過ごせる時間を大切にして残りの大学生活を有意義に過ごしていけたらと思います。

看護学部編入4年 香川奈央

昨年の4月に本学へ編入学をして、早くも1年が経ちました。入学当初は大学という新しい環境に慣れず



に戸惑うことも多くありましたが、今では在学生たちとも仲良くなり、学校生活にも慣れて充実した毎日を過ごしています。また、新学年となり、今まで一緒にいた編入生どうしても選択する授業が異なってきたり、ゼミでの研究が多くなるなど、学校で会う機会が少なくなりました。それは寂しくも感じますが、みんな自分の目指す道へと進んでいっているのだということを実感しています。

4年生となった現在、私は助産師の課程を選択しました。今まであまり知らなかった助産という分野について学んでいくにつれ、助産師の奥の深さを感じています。今年の7月には助産実習もあるので、上手く分娩介助ができるか心配ですが、臨床での助産師を実践の中から学んでいくことができるので、楽しみでもあります。また、卒業研究では、地域看護学分野の研究室に入りました。実際の事業の中に自分たちが関わりながら進めている研究なので、難しいことも多々ありますが、様々な職種の人たちと関わることができ、とても学びの深いものになっています。

これからは、助産実習や卒業研究、就職試験、国家試験などイベントが多く、忙しくなってい

ます。しかし、これも自分の選んだ道だと信じ、悔いのないように全力で取り組んで満足いく大学生活最後の1年にしていきたいと思います。

卒業生は今…

平成17年度 看護学部卒業 木村智子

この4月に長年の念願であった養護教諭になり、早2ヶ月がたちました。

保健室を利用する子どもは、1日平均15人前後ですが、その日の天候や行事などによって大きくばらつきがあります。保健室にやってくる子どもに、私は必ず第一声に「どうしたの？」と尋ね、自分の体に起きている状況を自分の言葉で表現させることを心がけています。保健室では、「いつから痛いの?」「さっき…」、「ズキズキする?」「チクチクする?」「分かんない…」等といった会話が繰り返されています。色々な表現の仕方でも症状を1つずつ明らかにしようとするのですが、表現力や語彙力がまだまだ未熟な小学生の訴えを的確にアセスメントすることはとても難しいことだと感じています。だからこそ客観的評価が行えるフィジカルアセスメントは、養護教諭として重要な技術であると実感しています。私も大学時代に使用していた教科書を再確認しながら、これらの技術をより効果的に利用できるように習得したいと思っています。

2ヶ月間、忙しい日々を過ごしていましたが、それでも校庭で走り回る子供たちの元気な姿、無邪気な笑顔を見ると、「この子供達の笑顔を守るために頑張ろう!」と気持ちが引き締まり、この仕事のやりがいを感じます。養護教諭は未来ある子ども達の元気を守るという重要な職責を追っています。子ども達に健康を唱える以上、まずは私自身が元気で笑顔の絶えない養護教諭でありたいと思っています。



平成19年度卒業生進路状況 看護学科

事 項	人 数		
	計	県 内	県 外
進 学	1(他分野)	0	1
就 職	48	22	26
(内 訳)			
看護 師	35	15	20
保健 師	6	4	2
助産 師	4	1	3
養護教諭	3	2(臨採)	1
そ の 他	5	4	1
合 計	54	26	28

卒業生数 54名

平成19年度卒業生進路状況 栄養学科

事 項	人 数		
	計	県 内	県 外
進 学	3	1	2
就 職	31	15	16
(内 訳)			
病 院	11	5	6
福 祉 施 設	7	5	2
行 政	1	1	0
食 品 開 発 製 造	1	0	1
食 品 販 売 サ ー ビ ス	3	0	3
給 食 受 託 会 社	2	1	1
栄 養 教 諭	1	0	1
家 庭 科 教 諭	1	0	1
研 究 助 手	1	1	0
一 般 職	3	2	1
合 計	34	16	18

卒業生数 34名

看護学科・栄養学科 学生数

(人)

看護学部		生活科学部		看護栄養学部			
看護学部	4年生 50	生活科学部	4年生 42	看護学科	2年生 52	栄養学科	2年生 42
看護学科	3年生 53	栄養学科	3年生 35		1年生 53		1年生 42

平成20年5月1日現在

平成19年度 看護学部教育研究充実費決算報告

(学生から徴収する教育研究充実費)

<収入の部>

(単位：円)

費 目	合 計	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	3 年 編 入	4 年 編 入	合 計
徴収金	6,785,000	2,340,000	1,050,000	1,505,000	1,410,000	180,000	300,000	6,785,000
(一人当徴収額)		(45,000)	(25,000)	(35,000)	(30,000)	(20,000)	(30,000)	
前年度からの繰越金	3,491	894	722	740	808	155	172	3,491
雑収入(受取利子)	6,302	1,614	1,304	1,335	1,460	279	310	6,302
合 計	6,794,793	2,342,508	1,052,026	1,507,075	1,412,268	180,434	300,482	6,794,793

<支出の部>

(単位：円)

費 目	合 計	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	3 年 編 入	4 年 編 入	合 計	備 考
臨地実習費	3,540,303	1,573,134	384,112	987,401	462,978	70,621	62,057	3,540,303	実習要項、will保険料他
学習援助費	1,793,892	485,651	580,319	245,032	372,230	31,461	79,199	1,793,892	教材実費他
学生返金	1,446,400	280,800	84,000	270,900	573,400	78,300	159,000	1,446,400	
(一人当返金額)		(5,400)	(2,000)	(6,300)	(12,200)	(8,700)	(10,900)		
次年度繰越金	14,198	2,923	3,595	3,742	3,660	52	226	14,198	
合 計	6,794,793	2,342,508	1,052,026	1,507,075	1,412,268	180,434	300,482	6,794,793	

*教育研究充実費は実費弁済として徴収しておりますので各学年徴収額が異なります。

*1年生は、臨地実習費に小児感染症検査料・聴診器代他が含まれます。

*返金後の端数は繰越金としています。

2008年3月31日 看護栄養学部長 藤村 孝枝
(※栄養学科は個別に決算報告を配布しています)

新入教員自己紹介



栄養学科 園田 純子

栄養学科に着任いたしました園田純子です。教科目としては、食事設計論、基礎調理学実習、食事設計論実習、学校栄養教育論等を担当しています。小倉から県立大まで通い始めて3か月、ようやく毎日のペースもつかめてきました。小学生から大学を卒業するまで、学生時代は下関で過ごしましたので、久しぶりの山口は懐かしさでいっぱいです。

現在、抹茶やブクブク茶など起泡性を持つ茶の物性に関する実験や、食文化についての研究を行っています。また、子どもの食教育に関して十数年来取り組んできましたが、こちらに赴任したのを機に、大学生の食生活をよりよくするために試行錯誤しているところです。そのひとつとして、学生とともに、毎月定期的に自分で作ったお弁当を持ち寄り、みんなで食べる『お弁当の日』を行っています。ぜひ皆さんも参加されませんか？お待ちしております！！



看護学科 西山 真由美

4月から看護学科に着任致しました、西山真由美です。

高校を卒業後、大学4年間を鹿児島で過ごし、東京で就職、そして地元の山口県に帰ってきました。山口の自然の豊かさ、人の優しさ、住みやすさを実感する毎日です。

臨床では助産師として働きました。NICU、GCUで新生児のケア、母乳育児の確立のための支援を通して赤ちゃんや、ご家族から多くのことを学ばせて頂きました。今後は、臨床での経験や学びを生かしながら、山口県の地域医療、看護、保健、福祉についてみなさんと一緒に考え、悩みながら学んでいきたいと思えます。難しい質問にうまく答えることができないかもしれませんが、一緒に悩むことはできますので、いつでも研究室（F103）に遊びに来てください。勉強のことのみならず色々な話を話しましょう。お待ちしております。



栄養学科 藤野 加奈子

栄養学科の助手として着任致しました藤野加奈子です。担当科目は食品科学実験、食品機能学実験、基礎病態学実験、生化学実験、食品と衛生管理実験、栄養教育実習（ライフステージ）です。今春生まれて初めて九州を離れ、一年生の皆さんと同じく右も左もわからない状態でのスタートでしたが、アットホームな栄養学科の学生の皆さんや教員の先生方に元気をもらって毎日を過ごしています。

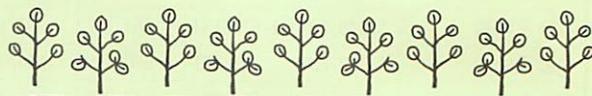
食品学、食品衛生学、微生物学という言葉だけを見ると、一見栄養学とは異分野のように思われるかもしれませんが、食に対する価値観・ニーズが高度化・多様化する今日、多種多様な食品の中から適切な食品を選択し、美味しく安全かつ栄養価の高い食事の提供を担う管理栄養士にとって決して欠かせない分野です。皆さんが実験や実習を通して栄養についてはもちろんのこと、食を取り巻く領域に対しても、より一層興味や関心を深められるようサポートしていきたいと思っています。



栄養学科 佐々木 亜希

4月から栄養学科に助手として着任しました佐々木亜希です。担当科目は、管理栄養士基礎演習、臨床栄養学実習Ⅱ（高齢者の栄養管理）、臨床栄養学実習Ⅲ（傷病者の栄養管理）、臨床栄養学病院実習ⅠおよびⅡ、基礎調理学実習、食事設計論実習です。

私は下関市出身ですが、大学、大学院ともに神戸で過ごし、6年ぶりに山口県に帰ってきました。大学院では、食生活と歯周病の関連性をテーマに研究していました。生活習慣病をはじめ、まだ栄養士として携わる機会の少ない歯科疾患でも、食事や栄養管理が必要とされています。私自身もまだまだ勉強中ですが、病態、生活環境に見合った栄養療法や献立について、みなさんと一緒に学んでいけたらと思っています。よろしくお祈りします。



編集
後記

看護学部と看護栄養学部の学年数が半々となり、今年度から「看護学部・看護栄養学部だより」としてお届けすることになりました。年々変化する学部だよりから、日々進化をめざす本学部の様子を読み取っていただければ幸いです。

編集委員 乃木 空田 丹